

■ 平成29年8月9日（水）観光振興対策特別委員会県内調査

1 吉城園



ア 調査目的 吉城園周辺地区の整備について

イ 調査概要

- ・ 吉城園周辺地区は、興福寺旧境内地の良好な風致景観が残っていることから、大正11年に名勝の指定を受け、昭和2年に追加指定を受けた。「御認証の間」を残す知事公舎をはじめ、独特な邸宅の佇まいが残る一方で、一部の建物は老朽化が著しく、樹林地も鬱蒼としており、名勝地としての価値を十分に維持できていない状況。
- ・ 平成29年9月から平成30年1月まで発掘調査。あわせて青少年会館、国際奈良学セミナーハウス等を解体。平成30年に詳細設計、工事に入る予定。
- ・ 知事公舎は、外観は残し、改装してレストラン等として整備。「御認証の間」は完全に保存し、一般公開。
- ・ 主棟及び世尊院は、有形文化財に指定されているため建物を壊さず手直しして、一般に開放しパーティーや会食の場、文化教室などに活用。
- ・ 民間から買い入れた古都買入地は、交流施設をつくり、結婚式やパーティーに活用。
- ・ 青少年会館は取り壊して宿泊施設になる。和洋一体の様式は新たな施設に活かす。
- ・ 副知事公舎は、玄関と庭の様相が良いので、同じような様相を残して建て替え。
- ・ 茶室の利用は継続。
- ・ 認証の間に入るのは無料、文化施設は有料となる予定。

2 高畑町裁判所跡地



ア 調査目的 高畑町裁判所跡地の整備について

イ 調査概要

- ・ 高畑町裁判所跡地は、奈良公園の南端に位置し、鷺池や浮見堂に隣接。鷺池と風致林が一体となる良好な風致景観が残る名勝地であったことから、昭和2年に名勝の指定を受けた。
- ・ 敷地内には、大正期に財閥が作庭した庭園が現存。志賀直哉や武者小路実篤など、日本を代表する文化人が交流した場として、近代の奈良公園を代表する庭園と高く評価。
- ・ 近年は竹林の繁茂や塀の倒壊等により、名勝地の環境を損ねているだけでなく、倒木による人身事故も発生。一般公開も出来ておらず、十分に維持できているとはいえない。
- ・ 庭園の復元を主役に、和風の宿泊施設と、交流や飲食ができる施設をつくる。
- ・ 各施設は庭園はもちろん、周辺景観と調和するデザインとし、風致景観をより高める。
- ・ 専門家が実施した調査結果を踏まえ、植栽環境を維持管理する。

3 大神神社



ア 調査目的 大神神社参道周辺地区のまちづくりについて

イ 調査概要

- ・奈良県と桜井市が平成26年にまちづくりに関する包括協定を結び、協力して参道沿道を核とした賑わいの創出に取り組むことにより、当該地区の持続的発展及び活性化を図ることを目的として平成27年10月に「大神神社参道周辺地区まちづくり基本構想」を策定。構想の実現に向け、地域住民、民間事業者、行政が協働で本地区において実施すべき事業等について検討し、平成29年4月20日に「大神神社参道周辺地区まちづくり基本計画」を策定。
- ・今後、基本計画に沿って事業を検討するため協議会を作る予定。
- ・3つのエリア（参道沿道エリア、三輪エリア、まちなかエリア）に分けて事業を整理し、ソフトハードあわせて24事業を実施予定。
- ・大神神社参道整備事業（県道三輪山線）では、平成28年3月以降、三輪参道整備検討会議（中和土木事務所、地元区長・有志、大神神社、桜井市）を開催し、参道整備の具体的なデザイン、材質について詳細な検討を実施し、平成30年度の工事着手を目指し設計等進めている。参道の大鳥居から二の鳥居までの約700メートルを3つのゾーンに分けて整備する。電柱は全て無電柱化を行い、樹木は三輪山への眺望を確保し、松並木をできるだけ残すことで検討している。
- ・商業者支援施設等整備事業では、参道北側の駐車場に、おかげ横丁のような店舗、まちなみをつくりだし、観光の目玉となるよう賑わいの創出を図る。
- ・観光案内誘導施設整備事業（サイン事業）では、観光案内サイン整備を行い、魅力的な地域資源をアピール、来訪者の利便性と三輪のまちなかへの回遊性を向上を図る。また、多言語の案内看板は、まだまだ少なく、積極的に整備を進める。
- ・賑わい創出事業（地場産業PR等）では、三輪そうめんや酒造りなどの地場産業、伝統行事をPRするイベント等を実施する。
- ・その他、地区への出店を促す起業支援事業、商業施設の利便性の向上・渋滞解消のための駐車場集約化事業、交通弱者に配慮した交通サービス導入事業等を実施する予定。
- ・基本構想の目標に対する事業効果指標（KPI）として6つの指標を設定し、5年後に検証、計画の見直しを行うこととしている。
- ・また、桜井市では、外国人観光客の誘致を図るため、平成28年度の交付金を活用したインバウンド事業により、宇陀市・磯城郡3町・宇陀郡2村の協力を得て、冊子「YAMATO」を5カ国語で作成するとともに、動画の作成も行った。